



実際には機械で収穫作業を行います。この日は鍬で土を掘り返し、じゃがいもを取り出してもらいました。順調に生育しているじゃがいもを見て、皆さんほっとしていた様子。収穫期まで見守ります。

味が増します。風で運ばれた海水が、土に適度なミネラル分を与えてくれることもおいしいじゃがいもづくりに欠かせません」

じゃがいもの収穫は年1回。徳之島では11月初旬に種芋を植えつけ、翌年1月20日頃から収穫を始め、4月半ばで出荷を終えます。

栽培中に怖いのは、気温の変化や台風などによる被害。頻繁に畑を見に行き、病気などの小さな変化も見逃さないよう気を配ります。



徳之島の赤土で育つ「ニシユタカ」という品種のじゃがいも。色白でてこぼこも少なく、見た目が美しいこと、ホクホクで煮崩れしにくいのが特徴です。肉じゃがやポテトフライ、カレーなど、さまざまな料理にどうぞ。



東シナ海を望む畑は日当たりも最高。海風に吹かれ飛散する海水のミネラルが土壌を豊かにしています。

収穫後は、トラクターで土を耕し、半年かけてじっくりと畑の土づくり。そして10月、土が太陽の光をいっぱい浴びて栄養を蓄えた頃に種植えを迎えます。

契約ばれいしょ部会の「顔が見える野菜。」新じゃがいもはJGAP認証を取得していることも特徴。JGAPとは食の安全や環境の保全、作業工程の管理など、安全性や適正な農場管理に関する120以上の厳しい基準が定められた認証制度です。

「農業に関するあらゆる工程を管理していくことが食の安全・安心や持続可能な農業につながるのあればと、会の仲間とともに鹿児島県のJGAP認証取得第一号を目指しました」と



1年かけて土づくりから愛情を込めて育てたじゃがいもは、わが子のように。大きく育ったじゃがいもを手にとりこり。



じゃがいもをはじめサトウキビ栽培にも適している徳之島の赤土。

榊山さん。

「JGAP認証を取得した安全・安心な徳之島のじゃがいもを全国へ広めたい」

南の島で汗を流す、メンバー全員の思いがこもった新じゃがいもです。

鹿兒島空港から小型の飛行機に乗りかえて約1時間。1月初旬のこの日、徳之島の最高気温は23度、汗ばむほどの陽気です。この暖かな南の島で、1月20日頃から日本一早い新じゃがいもの収穫作業が始まります。

お客様から安全・安心でおいしいと支持されているイトーヨーカドーオリジナルの食品ブランド「顔が見える野菜。」その新じゃがいもは、ここ徳之島のJAあまみ「契約ばれいしょ部会」の10戸のメンバーが栽培している、「ニシユタカ」という品種のじゃがいもです。

部会長の榊山博良さんに徳之島の新じゃがいもの特徴をうかがうと、まず土の良さをあげました。

「島の畑は赤土で、じゃがいもは土によって味が違います。この赤土で育てると、色白のきれいなじゃがいもになり甘



「顔が見える野菜。」
徳之島の新じゃがいも
(鹿児島県)

JGAP認証を取得している徳之島の新じゃがいもの「顔が見える野菜。」のラベルは金色。ラベルには生産者のお名前と似顔絵、JGAP認証マークをつけてお届けしています。全国のイトーヨーカドーの店頭で、4月半ばまで販売中です。



2008年に発足したJAあまみ徳之島地区野菜部会「契約ばれいしょ部会」の皆さん。後列右から4人目が部会長の榊山さん。



鹿児島県大島郡徳之島
奄美大島、沖縄島北部、西表島とともに世界自然遺産登録を目指す徳之島。闘牛が盛んな徳之島では闘牛が散歩している姿が見られます。



「顔が見える野菜。」
徳之島の新じゃがいも

イトーヨーカドー